

卷 頭 言

年 頭 所 感



所 長 鈴 木 基 之

Motoyuki
SUZUKI

あけましておめでとうございます。新たな年を迎えるに当たり、皆様の一層のご活躍とご多幸をお祈り申し上げます。

一昨年に続き、昨年はわが国の科学技術研究の体制に関しては変動の年であったと言えます。すなわち、わが国の科学技術の現状が近年経験したことがないほど厳しい状況にあり、科学技術が率先して未踏分野に挑戦していくことが必要であるとの認識にたつて、科学技術基本法（1995）を承けて、科学技術基本計画が制定されました。これに基づいて科学技術創造立国に向けての大幅な政府の科学技術投資の増大が始まり、研究開発システムの柔軟性、競争性の導入など種々の施策が改めて施行されつつあります。さらに、産学官協力による研究開発体制の整備、研究成果の国民や社会、経済への還元等の面でも具体的な施策提言がなされております。

わが国の経済成長が転換期を迎え、次の時代の新しい発展に大学等における科学技術創造力の一層の整備に期待が寄せられているためであります。ここにおいて、生産技術研究所もその将来計画にそって大きな責任を果たしていく為に新たな覚悟が求められております。

本所にとって昨年は、東京大学の将来計画の一環として駒場第二キャンパスへの移転を目指して、具体的な検討が実行段階に入った年とあって宜しいでしょう。勿論これは、従前から長年にわたり検討を重ねてきた本所のアカデミックプランが具現化していくプロセスであり、現在の科学技術活性化のための諸計画に沿うものであるのは勿論、さらに一層充実したものとしていく責任があります。

具体的に、当面の建築計画、移転計画の達成までには、幾多の段階があるかと思いますが、所内全構成員

が一体となって科学技術研究開発の理想的な拠点を実現していくことが本所に課せられた期待です。長期にわたるとされるそのプロセスにおいても日常の研究活動をさらに活性化させつつ、種々の問題に対処していくことが容易ではない面もあると思いますが、大きな理想の達成を目指して、所の皆様とともに決意を新たにしたいと思っております。